あわ文化の魅力発見★通信　No.2

「あわ文化の魅力発見☆通信」では、『あわっ子文化大使』が、**『私のまちの文化』**というテーマで地域の文化財や史跡、お祭り、郷土料理などを紹介します。あわっ子文化大使目線で紹介していきますので楽しみにしてください。

『あわっ子文化大使』とは…
あわ文化を次世代に伝承するとともに、ふるさと徳島の魅力を県内外に発信できる中学生のリーダー

鳴門の渦潮　世界遺産へ

鳴門市第二中学校 2年 作田 茉奈 さん

私が住んでいる鳴門市は、鳴門の渦潮で有名です。鳴門海峡は、イタリアのメッシーナ海峡、カナダのセイモア海峡に並ぶ世界三大潮流のひとつで、最大直径約２０メートルの世界最大級の渦潮が発生します。

渦潮を近くで見る方法は二つあります。一つ目は、「渦の道」です。床がガラス張りになっていて、巻いている渦を真上から見ることができます。二つ目は、観潮船です。観潮船は渦潮の近くまで行く船で、最も近い距離でダイナミックな渦潮を体験できます。この写真は、私が実際に観潮船から撮ったものです。

今、鳴門の渦潮を世界遺産に登録しようという動きがあります。私は、もっとたくさんの人に渦潮の素晴らしさを知ってもらい、渦潮がみんなの誇りになり、世界遺産に登録されてほしいです。みなさんも、一度渦潮を生で見て、是非大迫力を感じてください。

平家の落人伝説「お鶴さん」

那賀町立相生中学校 3年 石田 祥都 さん

僕が住む那賀町蔭谷の少し入り組んだ山の中には、お鶴大明神があります。2024 年にお鶴大明神の祠を覆う屋根が壊れかけていたので、修理を行うことになり、僕もその手伝いをしました。

祠には悲しい伝説があります。源氏の追っ手から逃げる為に、平家の落人のお鶴さんが子供と一緒に祠に隠れ住んでいました。ある日、誤って川に流してしまった杓子によって蔭谷の住民に見つかってしまいました。お鶴さんは自分の命と引きかえに子供の命を助けてほしいと願いました。しかし、お鶴さんは自害するより早く切りつけられて亡くなり、お鶴さんの子供もその成長に不安を感じた村人によって命を奪われてしまいました。その霊を供養するために、毎年8月15日には集落の人々が集まり、御住持様を呼んで供養をしています。

僕は祠の屋根を直す手伝いをして、昔から残るものを大切にしたいと思いました。お鶴大明神は、横を清流が流れる自然豊かな場所にあります。ぜひいつか蔭谷まで来る機会があれば立ち寄ってください。

400 年の歴史をもつ葉たばこ

阿波市立土成中学校 2年 大木 彩音 さん

私の両親は、葉たばこを栽培しています。最近では「たばこ＝ダメなもの」というイメージがしみついていますが、そんなたばこにも長い歴史があるのです。

400 年前の江戸時代、徳島県三好市の山間部では「阿波葉」と呼ばれる葉たばこ栽培が盛んに行われていたそうです。明治 32 年には、47 都道府県全てで栽培が行われ、都道府県別では徳島県が全国１位の面積を有していたという資料も残っています。私の家では曾祖父が 72 年前に葉たばこ栽培を始めました。そのころには徳島県だけで約 1 万 600戸もあった葉たばこ農家の戸数が、今では 10 戸ほどになってしまいました。そのうちの 7 戸は阿波市土成町にあります。

最近では受動喫煙の問題を受けた健康増進法の改正や喫煙者の減少からたばこの需要が減り、徳島県の葉たばこ生産農家はどんどん減少しています。私が葉たばこの歴史を知ってほしいと思ったのは、両親や祖父母が仕事をしているということもありますが、一番の理由としては、歴史と誇りをもって葉たばこを作っている農家 1 戸 1 戸を守っていきたいからです。農家の皆さんの気持ちが込められた葉たばこ栽培を、もっと知ってもらいたいです。そしてその文化に触れてもらい、たばこ＝ダメなもの、という皆さんのイメージを覆したいです。

神代踊の継承

三好市立榛生小学校の児童が、2022 年にユネスコの無形文化遺産に登録された風流踊の一つである「神代踊」の継承に取り組んでいます。神代踊保存会の方々から踊り方などを教わり練習に取り組んだ上で、7月19日（土）には本番に挑みました。どの児童も生き生きと踊ることができていたようです。地域に伝わる伝統文化を継承していこうと努力する児童の姿は大変頼もしいです。以下は踊りに取り組んだ児童の感想です。

榛生小学校　提供

神代踊には、男踊りと女踊りがあり、どちらも個性があり、よさが出ています。踊り終わったときは、「また来年もしたい」「この伝統文化を受け継いでいきたい」と思います。

私は、神代踊を6年間続けています。女踊りをしていて、せんすをまわすのは難しいですが、踊ると本当に楽しくて、踊り終わったときの達成感は最高です。

令和７年１０月３日　発行：徳島県教育委員会 義務教育課